特集2
JR宇都宮駅東口
整備事業

現在は餃子店や駐車場として暫定活用されている、JR宇都宮駅東口地区

「宇都宮駅東口地区整備事業に係る要望書」を提出

商業者・事業者の声を反映した事業計画を！

宇都宮商工会議所は9月25日(木)に、佐藤栄一宇都宮市長と熊本和夫宇都宮市議会議長に「宇都宮駅東口地区整備事業に係る要望書」を提出しました。JR宇都宮駅東口の再開発に関して、市内商業者・事業者の皆さんのご意見などをうかがった上でまとめたものです。

当所では、これらの疑問に対して宇都宮市の担当者から説明してもらうため、本年8月25日(月)・26日(火)の2日間、「宇都宮駅東口地区整備事業説明会」を開催しました。参加者は2日間で170人と、同種の説明会としては異例の多人数が参加。この問題に対する関心の高さがうかがわれました。

説明会では、出席した宇都宮市総合政策部地域政策室の担当者からは「あくまで調査であり、何も決定していない」との説明が繰り返されました。それに対し、出席した中心商店街の商業者からは「せっかくの場なので本音で議論したい」など、行政との情報ギャップへのいらだちの声なども聞かれました。

その後当所では、説明会での質問や、当日のアンケート結果などから会員企業の意見を集約。さらに9月5日(金)に副会頭や関連部会・委員会などによる合同会議を開催して、今後の方針などを話し合いました。その結果、宇都宮市に対し「大型商業施設は反対」などの意見を盛り込んだ要望書を作成し、9月25日(木)に市長・市議会議長へ提出しました。仮に東口に大規模な商業施設が造られた場合、周辺だけでなく中心商業地域、ひいては宇都宮市全体におよぼす影響が計り知れないと考えます。

また、計画が提示されてから市民や事業者の意見を集約して十分に考慮するだけの、余裕をもったスケジュールが不可欠であると考えます。

何よりも、県都宇都宮市の新しい玄関口として恥ずかしくない、長期にわたって繁栄できる開発事業を実現させるために、行政と事業者、市民が協力することが重要であり、当所は今後もよりよい宇都宮市の発展をめざして尽力していきます。

JR宇都宮駅東口地区の整備は以前から懸案事項となっていました。平成16年度に再開発事業の最優先交渉者が決定しましたが、その後経済的要因などにより業者が辞退(平成21年度)、事実上進展が止まってしまいました。平成21年12月からは暫定利用として、餃子店などが店舗営業を行っています。

県都・宇都宮の玄関口として、できるだけ早い整備が求められている地区であり、その動向は多くの注目を集めています。当所でも、スポーツアリーナを核とした多目的施設を提言(平成25年1月)し、新しいまちづくりの方向性を提案しています。

また平成23年度には宇都宮駅東口地区整備推進懇談会から「広域的な交流を促進するシティセールスとにぎわいの拠点の創造」を基本目標とし、望ましい機能として「シティセールス機能(さまざまな会議やイベントなどを開催できるコンベンション施設)」「にぎわい創出機能(商業・宿泊・業務・交流広場等)」などが提言されています。

さらに平成24年度には宇都宮市議会のJR宇都宮駅周辺地区整備調査特別委員会から報告書が提出されました。そこには「交通結節機能の強化、官民連携による整備、環境・景観・アメニティに配慮した整備、自転車利用者への考慮」とする方向性と、それに基づく整備として「コンベンション機能とアリーナ機能を併設した複合型施設」(中核的施設)、「市民生活の利便向上のための施設」などが提案されました。

こうした中、宇都宮市は平成25年後半に「対話型市場調査」を実施しました。これは、企業から事業提案を提出してもらい意見交換を行って、今後の整備事業の参考にするもので、参加7企業からコンベンション施設やホテル、医療機関などの提案がありました。その中には商業施設の提案も含まれており、売場面積が小規模な「日用品を主としたコンビニ」から、最大6万平方メートル程度の「大型複合店舗」も含まれていました。

宇都宮市はこの「対話型市場調査」を今後の事業計画策定のための〈調査〉としていますが、公表された概要を読んだ中心市街地商店街など商業団体から「これまでの宇都宮市との議論で、大型商業施設の話は出ていない」「従来のまちづくりの指針から外れているのではないか」などの意見が出てきました。

9月25日に市長・市議会議長へ要望書を提出

写真上／8月25日・26日の宇都宮駅東口地区整備事業説明会
写真下／9月5日の宇都宮駅東地区整備事業に関する合同会議

宇都宮駅東口地区整備事業に係る要望書

❶大規模商業施設の導入には反対

導入機能については、今後とも宇都宮駅東口地区整備基本計画(平成17年6月)及び宇都宮駅東口地区整備推進懇談会提言書(平成24年3月)等に沿って検討を行うこと。

今般の対話型市場調査における大規模商業施設(売り場面積6万㎡)の提案は、これまでの街づくりの方針(「県・市の玄関口にふさわしいシンボル性や個性のある施設」)に沿うものではなく、既存の商業者にも甚大な競合を生ずることから導入しないこと。

❷客観的な需要調査と市民の意見聴取

整備方針の策定にあたっては、それぞれの導入機能について、客観的な市場調査による需給見込を示しつつ、市民や地域の民間事業者・団体等の意見を十分に聴取して、慎重に検討を進めること。

❸スケジュールの明示

事業全体のスケジュール、民間事業者の選定方法を明らかにすること。

宇都宮駅東口地区
整備事業に関する当所の活動

1 「宇都宮駅東口地区整備事業計画策定に関する要望書」提出

日程／平成25年1月18日(金)
要望先／
宇都宮市長、宇都宮市議会議長

2 宇都宮駅東口地区整備事業説明会

日時／
平成26年8月25日(月)
午後6時～7時30分
平成26年8月26日(火)
午後3時30分～5時
会場／当所 大会議室
対象者／
◎8月25日(月)
宇都宮市商店街連盟、当所商業小売部会、宇都宮地域商業振興協議会、宇都宮市中心市街地活性化委員会、みやヒルズ活性化委員会
◎8月26日(火)
当所建設部会、当所総務企画委員会、当所まちづくり委員会、当所地域活性化委員会、まちづくり推進機構会員
参加者／170人
◎8月25日(月)……96人
◎8月26日(火)……74人
内容／
宇都宮駅東口地区整備事業に関する説明、質疑応答、今後の対応についての意見交換

3 宇都宮駅東地区整備事業に関する合同会議

日時／平成26年9月5日(金)
午前10時～正午
会場／当所 常議員会室
出席者／26人
(副会頭、当所商業小売部会、当所建設部会、当所総務企画委員会、当所まちづくり委員会、当所地域活性化委員会)
内容／
宇都宮駅東口地区整備事業の概要、経過報告、意見交換

4 宇都宮駅東口地区整備事業に係る要望書提出

日程／平成26年9月25日(木)
要望先／
宇都宮市長、宇都宮市議会議長